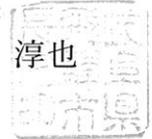


飛政第52号
令和8年2月13日

飛驒市議会議長 澤 史朗 様

飛驒市長 都竹 淳也



市政に関する要望について（回答）

令和7年12月11日付け飛議第185号で要望のあった件について、別紙のとおり回答します。

1. 養護老人ホーム和光園の運営について

- ・入所条件緩和や体制整備を進め、入所者確保に努めること。

【市民福祉部】

養護老人ホーム和光園は、主に生活困窮状態にある高齢者のセーフティーネットとして重要な役割を担っています。同施設はこうした方を対象とした措置施設として位置づけられており、一定の入所基準が定められています。ただし、措置基準につきましては各市町村の判断により柔軟な対応が可能であることを確認しておりますので、今後は入所希望者の生活状況や実情を十分に踏まえ、より適切な対応ができるよう検討を重ねてまいります。

また、入所者数については、定員50人に対して、令和8年1月現在で44人となっており、令和8年1月からは契約入所制度を制度化しました。措置入所に加えた受入れの選択肢を整理し、多様なニーズに対応できる体制を整えています。

今後も各方面への声掛けなど入所者の確保に努めるとともに、介護報酬の改定等を参考にしながら、措置費の支弁の引き上げなど、指定管理者の施設運営の安定化にも努めてまいります。

2. 薬草のまちづくりについて

- ・担い手育成と組織連携を進め、薬草のまちの発展を図ること。

【商工観光部】

本市の薬草のまちづくりは、市民の健康意識向上と「薬草のまち飛騨市」としての認知度向上を柱に取り組んでまいりました。その結果、活用する市民の増加や「全国薬草フェスティバル」を通じた関係人口の獲得など、一定の成果を収めております。

一方で、自らプログラムを企画し提供するプレイヤーが不足していることは否めません。市民が主体となった「まちづくり」こそが本市の魅力であり、今後は外部来訪者とまちづくりとの関わりの機会の創出が重要であると考えているため、令和8年度は旅行会社と連携したツアーをはじめ、各種ワークショップやセミナーなどの開催を通じ、人材の育成に努めてまいります。

また、新たな団体組織の立ち上げについては、市が主体となって検討するものではなく、現在活動を牽引している NPO 法人薬草で飛騨を元気にする会など、各団体の意向を丁寧に確認しながら、その必要性や在り方について関係者と対話を重ね、必要に応じた支援や環境整備に努めてまいります。

3. 道の駅イベントについて

・両道の駅で共同イベントを実施し、来客増加とPRを図ること

【商工観光部】

道の駅につきましては、「アルプ飛騨古川」「宙ドーム・神岡」ともに、飛騨市における重要な観光・産業拠点として位置付けており、継続的な誘客力の強化が課題であると認識しています。

これまで、市の働きかけにより、まるごと食堂への参加、食や地域資源をテーマとしたファンクラブ連携事業、鮎の販売会といった取組みなど、市と道の駅が連携した実質的な共同イベントを実施してきました。今後は、こうした取組みをさらに強化してまいります。

具体的には、アルプ飛騨古川については、令和7年度に設立予定の協議会を基盤として、令和8年度には市の補助制度を活用したイベントの実施を支援します。また、宙ドーム・神岡においては、市の調整のもと専門家の助言を受けた売場改修やPR等強化が進められており、市としてはこれらの取組みへの支援を拡充し、両道の駅の誘客力強化とブランド力向上につなげてまいります。

4. 奈良県河合町との交流について

・友好交流を継続・発展させ、交流人口の拡大に繋げること

【河合振興事務所】

奈良県河合町との交流につきましては、令和4年度以降、市職員交流の再開や止利仏師伝説を契機とした訪問を重ねるとともに、令和5年度には飛騨河合止利仏師顕彰会、令和6年度には市長の訪問、ゆかりの地を巡るツアーの実施などを通じ、一定の交流成果を得てきました。

令和8年度には、地域振興費を活用した市職員の訪問を予定しており、ツアーの再開や文化交流、自然体験を生かした取組みなど、飛騨市河合地域の特色を生かした交流について、段階的な取組みの可能性を検討してまいります。